

石川県内の働き方改革促進企業

（働き方改革推進支援助成金の活用事例）



石川労働局 雇用環境・均等室



働き方改革推進支援助成金を活用した石川県内の企業の好事例

	タイトル	事業場名	頁
1	顔認証システムと労務管理ソフトの導入 ～労働時間の適正把握～	株式会社寺田鉄工建設	1～2
2	工業用縫製ミシンの導入による業務効率化 ～「人」から「機械」へのシフトチェンジで生産性向上～	中外製網株式会社	3～4
3	多機能加熱調理器の導入による三方よし ～調理量の増加・調理時間の短縮・光熱費の軽減～	株式会社グッドステーション 杜の郷 九谷	5～6
4	検査業務を外部委託から自社実施へ ～作業期間を短縮・作業工程の停滞を改善～	有限会社中本農園	7～8
5	調理器具の導入で労務負担を軽減 ～作業時間短縮・生産性向上～	大生食品工業株式会社	9～10
6	一体型製封函機を導入しロス時間と出荷コスト軽減 ～労働者の心身の疲労を軽減～	株式会社森こん	11～12
7	農業用ドローンの活用 ～ドローンによる農薬や肥料の散布で作業負担の軽減と効率化～	企業名非公表	13～14
8	タイムレコーダーと就業管理ソフトの連携 ～勤怠管理業務の負担軽減と給与事務の効率化～	株式会社ナウ	15～16



働き方改革推進支援助成金を活用した石川県内の企業の好事例

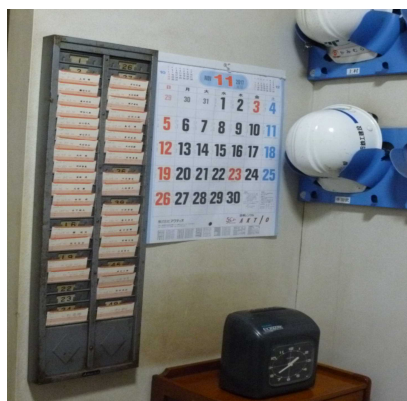
9	設計業務ソフトの導入 ～最新の設計業務ソフトの導入で電子的納品を効率化～	株式会社ロードマネジメント	17～18
---	---	---------------	-------

顔認証システムと労務管理ソフトの導入 ～労働時間の適正把握～

事業場名：株式会社寺田鉄工建設（小松市） 業種：総合建設業 労働者数：38名
設備費用：約10万円 うち助成金額：約8万円

【課題と対応】 ～助成金活用の背景と狙い～

従前は労働時間を集計する際には、タイムカードを使用しExcelに手入力し算出していました。

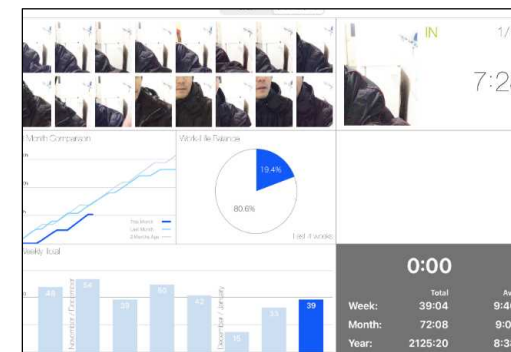


そのため、打刻の印字不鮮明や打刻漏れが発生し、労働時間を適切に把握できない状況にあり、対応策を検討していました。

【実施内容】

そこで、正確な勤怠管理や業務を効率化することを目的とし、助成金を活用することにしました。

助成金を活用



個人別に該当週の隔週日別で労働時間を表示できるほか、週、月、年の通算労働時間、残業時間を可視化できるようになりました。また、労働者からの意見・相談窓口担当者も表示されるように工夫をしました。



【活用のポイント】

以前使用していたタイムカードと異なり、顔認証システムを導入することで、本人以外が打刻できなくなりました。また、日本語が苦手な外国人労働者にも、アイコン表示で識別をし易くしました。

【成果】

各自が毎日労働時間の推移やワークライフバランスの比率を目視することができ、時間外労働時間の削減について、意識を醸成させられるようになりました。さらに、労務管理ソフトの導入により、集計ミスが無くなり、適正な労務管理が容易になりました。管理職も部下の勤務状況がウェブ上で随時把握できるようになったメリットも大きいです。

【今後の取組】

事務所にフリーアドレスを検討しています。また、従業員の健康と福祉の増進に向けて勤務間インターバル制度の導入について検討しています。人手不足の解消に向けては、技術伝承、社員教育を行うことでスキルアップを図り、労働生産性の向上に努めます。

【さらなる工夫】

人事評価制度の見直しを行っています。勤続年数にかかる表彰を20年目、30年目としていましたが、従業員のやりがいをもっと創出するために、新たに10年目からの早期表彰の導入も企画しています。

＜経営者コメント＞

各個人でも労働時間を把握し、ワークライフバランスを保ってほしい。そのために業務の改善、効率化と働きやすい職場環境への改善を目指していきましょう。



工業用縫製ミシンの導入による業務効率化 ～「人」から「機械」へのシフトチェンジで生産性向上～

事業場名：中外製網株式会社（金沢市） 業種：繊維工業 労働者数：98名

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

以前は、人力で漁業用の網の整網や補正作業を行っていました。



助成金を活用

【実施内容】

そこで、設備投資に助成金を活用して、新たに工業用縫製ミシンを2台導入することにしました。



そのため、縫製作業に時間がかかり、長時間労働が発生するなどの課題を解決したいと検討していました。

設備投資による生産量の増大と、当該業務に従事できる者を増やし（多能工化）、縫製作業の効率化を目指しました。



【活用のポイント】

工業用製法ミシンを導入し、業務「人」から「機械」にシフトチェンジすることで、労働生産性をUP！！

【結果】

以前は経験値の違いにより、作業時間に差異が生ずることもありましたが、設備を導入したことで、ミシンの操作を習得し、網の縫い合せ作業の平準化が可能となりました。その結果、残業時間の大幅な減少につながり、年間の時間外労働は半減しました。

【今後の取組】

より一層の機械化促進、道具の開発、それによる業務の多能工化の3点を目標に業務改善を促進していきます。また、人にも環境にも配慮した職場環境の改善に向けて、新倉庫の屋根に太陽光発電施設を工事中です。

【さらなる工夫】

設備の導入とともに、労働者のワークライフバランスの見直しとモチベーションの向上のために、毎週水曜日と土曜日（休日以外）は完全に“残業のない日”としました。また勤務間インターバル制度を導入し、労働者の疲労の回復に努めることができました。

＜経営者コメント＞

“もっと楽に！ もっと便利に!!”
手作業を機械化し、網の縫合作業の効率を上げよう



多機能加熱調理器の導入による三方よし ～調理量の増加・調理時間の短縮・光熱費の軽減～

事業場名：株式会社グッドステーション（能美市） 業種：社会福祉施設業 労働者数：117名

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

入居者全員の食事を料理するのに、4～5食ずつ調理をしていました。また、一部の人にしか作業を任せられない状況にあり、業務が非効率であることが課題でした。



助成金を活用

【実施内容】

そこで助成金を活用し、1日1時間、月20～30時間程度の労働時間の削減を目標に、多機能加熱調理器の導入をすることにしました。操作が簡単で「誰でも効率よく調理」を任せられることで「多能工化」ができるようになります。



【活用のポイント】

多機能加熱調理器の導入により、一度に調理できる量が増え、調理時間の短縮と燃料の削減を実現



<経営者コメント>

熟練者以外でも、1回で調理できる量を増やし、作業効率をアップしたい



【成果】

この設備の導入により、一度に入居者分の調理ができるようになっただけでなく、誰でも調理ができ、火加減調節のための人員が不要となりました。空いた時間や人員は、他の業務に従事することで、厨房の労働生産性が向上しました。さらに、調理時間の短縮は光熱費の削減につながりました。また、調理のレパートリーが増え、温かい食事を提供できるようになったことで入居者から感謝のコメントをいただきました。

【さらなる工夫】

労働者の健康を目的にICカードを導入し労働時間を適正に把握しています。

【今後の取組】

令和4年3月から介護記録システムを導入し、複数の施設をネットワーク化します。利用者情報をWeb管理することで、情報の共有や移動という時間のロスを排除して、業務の生産性を向上させます。また入居者の満足度を高める行事食メニューを提供していきます。



検査業務を外部委託から自社実施へ ～作業期間を短縮・作業工程の停滞を改善～

事業場名：有限会社中本農園（白山市）

業種：農業

労働者数：49名

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

施肥設計には土壌分析作業が必須であり、外部に検査を委託すると2～3週間程度を要し、この期間は作業が停滞していました。作物の作付は先延ばしできず、検査後速やかに作業をおこなうため、時間外労働が発生するなど作業工程に無理がかかっていました。



助成金を活用

【実施内容】

そこで、助成金を活用し、自社で土壌分析装置を導入することで、労働生産性を上げることにしました。



【活用のポイント】

土壌分析装置を導入し、外部委託から自社検査に移行したことで、作業工程にムダがなくなり、業務の効率化ができました。また、肥料のコストダウンにもつながりました。



農薬散布機械

<経営者コメント>

業務の効率化と労働者の労働環境の改善を行いたい



【成果】

以前は検査結果が出るまでに2週間検査結果の待ち時間がありましたが、この設備の導入により、準備段階を含めて1時間で完了することができるようになりました。土壌改良作業全般についても、3週間から1週間へ短縮。農作物の作付け計画が容易となり、結果として時間外労働が削減されました。

【さらなる工夫】

農薬散布は20Lを背負う形で散布し、農薬補充のたびに移動や補充作業が必要で労働生産性が低い状態でした。翌年より働き方改革を加速化するために、再度助成金を活用し、農薬散布機械を導入しました。散布作業時間を短縮することで、月の労働時間を10時間近く削減でき、その時間を他の業務に活かせるようになりました。

【今後の取組】

露地野菜の農薬散布に関する法改正を鑑み、農薬散布にドローンを導入していきたい。現在3名で90分程かかっている散布作業は、1名で15分程度に労働時間を大幅に短縮することができる。手の空いた時間や人は他の業務に従事できるため、確実に労働生産性向上が見込める。



調理器具の導入で労務負担を軽減 ～作業時間短縮・生産性向上～

事業所名：大生食品工業株式会社（金沢市） 業種：食品製造業 労働者数：44名
設備費用：約65万円 うち助成金額：約49万円

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

新たな人材の確保が難しい状況下でも、従業員の労務負担を軽減しながら、作業を効率化させる必要がありました。この状況を打破するために、業務の見直しを行い作業効率を上げる方法を考えました。

助成金を活用

【活用のポイント】

調理器具を導入することで、労務負担を軽減、作業時間を短縮・生産性の向上を図りました。

【実施内容】

そこで、助成金を活用し、新たな調理用機器として湯せん機と電気フライヤーを導入することにしました。





＜経営者コメント＞
業務の平準化と効率化を
図り、全社的に生産性の
向上に取り組もう！



【成果】

設備の追加導入により、同じ量を作っても作業時間が半分になるだけでなく、調理順調に行われた際に発生する空時間は別の業務に従事してもらうことにしました。結果として全体的に労働生産性が向上しました。

【さらなる工夫】

労働時間はICカードを導入し適正に把握しています。また労働者の健康と福祉のために「勤務間インターバル制度」を導入しました。

【今後の取組】

令和4年1月より勤怠管理ソフトを導入し、管理部門の業務を効率化します。また、4月以降は異なる事業場の業務を一元管理するために、日報などのDX化（デジタル技術による業務改革）を図ることにより、業務を可視化し、作業時間のロスや労働者のスキルを平準化させ、全体的な労働生産性につなげていきたいです。



一体型製封函機を導入し、ロス時間と出荷コスト軽減 ～労働者の心身の疲労を軽減～

事業場名：株式会社森こん（白山市） 業種：食品製造業 労働者数：33名
設備費用：約326万円 うち助成金額：50万円

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

製品を梱包する工程において、ダンボールの組立時破損、箱詰め時の中敷きコスト増、封入時の連結ズレによる箱の歪みにより、生産効率の低下がありました。

助成金を活用



【実施内容】

そこで、作業工程を一元化して労働生産性を上げるために、助成金を活用し一体型の製封函機を導入することにしました。



【活用のポイント】

一体型の製封函機を導入したことで、出荷業務の簡素化と業務の効率化ができました。



<経営者コメント>

一体型の製封函機を導入により
出荷コストの削減と業務の効率
化を達成



【成果】

設備の導入により、箱をセットする時のロスが無くなったほか、一連の作業が1時間当たり10分短縮され、労働生産性が向上しました。さらに、中敷きが不要になった事でコストの削減に成功しました。また、一体型になった事で、箱の歪みが無くなり、パレット積みも容易に、かつ、荷姿がキレイになり、はみ出しが無くなりました。その結果、箱の損傷が無くなり、積み直しの手間も減少したことで、労働者のストレス負荷も少なくなりました。

【さらなる工夫】

より一層の労働者の健康回復を目的に「勤務間インターバル」や時間単位年休制度を導入しました。また、ICカードを導入することで、労働時間や年次有給休暇を可視化し、働き方・休み方改革を促進させ、労働者が働きやすい労働環境の整備に努めています。

【今後の取組】

今後は、従業員の多能工化を進め、誰でも業務を遂行できるようにすることで、効率化を図りたい。そのために、労働者が新たな知見や経験を得られるように特別休暇を拡充したい。



農業用ドローンの活用

～ドローンによる農薬や肥料の散布で作業負担の軽減と効率化～

事業場名：A社（加賀市） 業種：農業（主に稲作）

労働者数： 1名

設備投資額：158万円 うち助成金額：124万円

【課題と対応】

【実施内容】

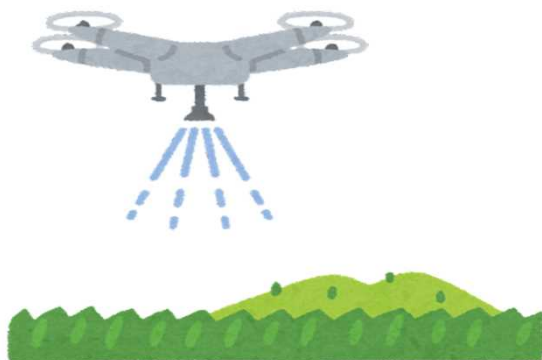


助成金を活用



これまで動力噴霧機を背負い、田や畑を歩いて農薬や肥料を散布していたため、散布し終わるのに時間と日数がかかり、体力的な負担も大きかった。

そこで、助成金を活用して農業用ドローンを導入した。ドローンの導入により、一度に広域の散布が可能となり、農薬や肥料を短時間かつ均一に散布出来るようになった。また時間と心にゆとりができ、品質管理に力を注ぐことが出来た。



【活用のポイント】

社会保険労務士による紹介から、負担軽減だけでなく品質向上や働き手のモチベーションアップも含めて検討した。

【成果】

作業の効率化と品質向上、またドローンという最新の農業機械を導入した事で、若手従業員のモチベーションアップにもつながり、作物と作業へより一層力を注ぐことができ、生産性がアップした。

＜経営者コメント＞

農作業の効率を上げて収穫物の品質を向上させたい



【さらなる工夫】

現在ドローン散布を行っていない作物や場所にも積極的にドローンを活用し、農作業の効率を上げて新品種へチャレンジする。

【今後の取組】

現在ドローンの操縦者は1名だが、更に1名増やし交代での作業を可能として、負担軽減と休みを取り易くする。

タイムレコーダーと就業管理ソフトの連携

～勤怠管理業務の負担軽減と給与事務の効率化～

事業場名：株式会社ナウ（金沢市）業種：繊維製品製造業（女性用補正下着） 労働者数：29名

設備投資額：21万円 うち助成金額：15万円

【課題と対応】～助成金活用の背景と狙い～

【実施内容】



助成金を活用



これまでタイムカードの打刻を所属長が確認して人事課に送付し、人事課でも確認して給与ソフトへ手入力していた。給与計算等の事務に時間が掛かっていたため、デジタル化による効率化を検討してきた。

そこで助成金を活用して、ICカード型タイムレコーダーと就業管理ソフトを導入し、各所属長の勤怠確認やタイムカード送付の時間と手間を削減でき、締め日の翌日から給与事務に取り掛かることができた。また就業管理ソフトと給与計算ソフトの連携により手入力作業を不要とした。





<経営者コメント>

勤怠管理をデジタル化して、締め日から給与支給日までの負担を軽減したい



【活用のポイント】

インターネットで活用できそうな助成金を検索し、公的機関等の無料相談窓口にご相談して利用条件等を確認の上で申請した。

【成果】

各所属長の勤怠確認やタイムカードの送付が不要となり、手入力によるミスもなくなって、関係部署での生産性が向上した。また締め日から給与支給日まで休日の多い月でも焦らずに事務処理を行え、毎月約12時間要していた給与事務を約4時間に短縮できた。

【さらなる工夫】

人事課に転送された打刻情報を週1回チェックし、打刻漏れ等が無いかを定期的を確認することで、締め日後の給与事務をよりスムーズに行うことができるようにした。

【今後の取組】

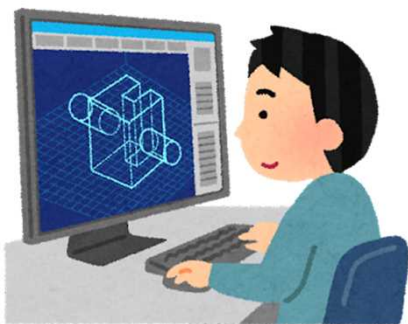
管理が難しく導入を躊躇していた制度（時間単位の年次有給休暇など）を、今回導入した就業管理ソフトの活用によって整備できるよう検討していきたい。

設計業務ソフトの導入

～最新の設計業務ソフトの導入で電子的納品を効率化～

事業場名：株式会社ロードマネジメント（金沢市） 業種：建設業（土木工事） 労働者数：23名
設備投資額：69万円 うち助成金額：50万円

【課題と対応】



助成金を活用

【実施内容】



発注設計書や社内の設計業務ソフトの電子データ形式の違いにより、ソフト毎にデータ変換作業が必要であった。また業務毎に使用するソフトも異なり、各業務のワークフローの停滞や属人化の要因になっていた。

そこで、助成金を活用して新たな設計業務ソフトを導入して、業務の簡素化と分散化を行った。設計業務ソフト毎に異なるデータ形式の共有化が簡便となり、業務ソフト毎の分散処理や統合がやり易くなって、各業務担当の作業効率がアップした。



【活用のポイント】

地元商工会による紹介を受け、手続きに関する相談と支援を受けて申請して利用できた。

【成果】

業務ソフト毎のデータ形式の都度変換が不要となり、ワークフローの停滞や業務の属人化が改善され、電子的納品を効率的に行う事が可能となった。また納期にも余裕ができて、感染症対策として導入した特別休暇などの取得もしやすくなった。

【さらなる工夫】

データ管理方法や業務担当者間のワークフローの見直しを行い、より円滑な納品を実現した。

【今後の取組】

建設業のDX化を目指し、3D化やIoT設備・機器との連携を試みて、施工品質の向上と安全な労働環境の整備や実現につなげたい。

＜経営者コメント＞

社内業務の効率化と発注元との電子データの受け渡しをスムーズにし、納期の余裕を確保して、安全と品質を向上させたい。

